

1. 沖縄の現状と課題

1.1 教育

- 貧困が第一の問題だが、貧困問題については島村先生がご専門なので、今回は学力や教育内容について議論する。
- 学力基礎的な「知識・技能」は向上傾向、「思考力・判断力・表現力等」について課題。様々な施策により小学校の授業改善は進んでいるが、中学校では組織的な教材研究の課題が残る。

1.2 科学技術

- OIST がシュプリンガー・ネイチャーによる 2019 年の世界の研究機関ランキングで世界 9 位になり、特に基礎科学の発展が目覚ましい。一方で、研究所として基礎科学からの応用科学や地域の産業発展の道筋を検討する時期に入っている。
- 琉球大学は、日本ランキング 2019 で 89 位(前年 99 位/全体 150 位)、世界ランキング 2019 で 1001+位、偏差値 40.0 - 65.0、教育充実度がやや高く、国際性が低いと評されている。琉球大学の卒業生や修了生が OIST に入学あるいは研究者として就職する事例は殆どない。

1.3 情報通信

- 離島インフラが整っていない。一方で本島は 5G の試験的な拠点になっている。

2. 世界の現状、課題と今後の動向と事例

2.1 教育

- 遠隔教育や教育投資の効果に関する研究が進む。
- 将来的に不足する人材は明確化しているが、不足に対応した教育体制は構築されていない。

2.2 科学技術

- シリコンバレーの大学周辺、シンガポール大学や理研の基礎科学から応用科学そして産業発展事例を挙げる。
→ 関連施設の近さや場所作りが重要。また、近年は基礎科学そして産業発展までの時間が短くなった。
- 中国での重点領域であるロボットの政策事例「ロボット産業発展計画」
→ ロボットの部品から未開の領域に至るまで必要事項を細分化し、未発展箇所にも投資。

2.3 情報通信

- 情報通信インフラ整備が充実し、各所地域で特出した情報通信サービスを提案

3. 沖縄での展開と可能性

3.1 教育

- 遠隔教育と将来を見据えたカリキュラム提案
→ 学校間での教材研究連携とともに、不足する専門人材を育む環境を整え、周辺国や本州での活躍を促進

3.2 科学技術

- 科学技術の発展のために必要となる、交流のための場所作りと県外と海外からの交流との連携
- 基礎科学、応用科学、未開の領域や産業に至るまで事項を細部に列挙し、必要箇所と沖縄の特性がある事項に投資

3.3 情報通信

- 情報通信インフラを整備し、県内の教育や観光サービスを充実させる必要性がある